

## 第98回箱根駅伝

細田木材工業顧問

細田 安治

お正月の恒例となった第98回東京箱根間往復大学駅伝競走は、2022年1月2日から1月3日まで開催された。98回目の東京箱根間往復大学駅伝競走であり、総距離(217.1km) 往路(107.5km) 復路(109.6km)で行われた。筆者はこのほか箱根駅伝に様々な意味で興味があり毎年楽しみにしている。読者の皆様も既にご存じでしょうが、今年は様々なドラマがありご紹介したくなりました。ご参考に供すればと存じます。

先ず概略から

### ◇出場校名

1.青山学院大 2.帝京大 3.駒澤大 4.国学院大 5.順天堂大 6.中央大 7.東京国際大 8.創価大 9.東洋大 10.東海大 11.早稲田大 12.神奈川大 13.法政大 14.国士館大 15.山梨学院大 16.日本体育大 17.明治大 18.中央学院大 19.専修大 20.駿河台大 21.関東学生連合、単独出場20、連合出場1、参加合計21大学となる。以下校名略

・出場選手1校10名(往路5名)、(復路5名)×21校=210名・ベンチ入り選手数各校16名、監督、コーチ、関係者、報道陣、交通巡査などを含めるとご存じ数万人規模の大イベントである。

### ◇コース10区間 国道1号線

以上のように往路1区、2区が比較的平坦なのでここがまずレース序盤のポイントとなる。

各校チームは1区、2区に選手をどのように配置するかが監督の腕次第と言われている。



箱根駅伝往路図



箱根駅伝復路図

#### ◇実況

筆者は昔から箱根駅伝には興味を持っている。駅伝はマラソンと違い、個人競技ではない。言わずと知れたことだが駅伝のレースでは一人や二人の優れた選手がいても、全体のチームとしての力がなければレースには勝てない。駅伝に限らず団体競技は全てそうであるが特に駅伝は、監督コーチ選手が一体となって戦わなければ決して勝てない競技だ。しかも箱根駅伝は、二日間にわたり片道約107.5キロ往復217.1キロの長距離コース、しかも道中は険しい山坂が控え、特に箱根の山登り高低差50メートルの上りと下りを繰り返す難所が続いている。

監督コーチ選手が一体となった総合戦略が必要である。この辺は企業経営がそのまま当てはまる場所である。

選手を適材適所に配置する作戦では、選手の得意技、と体力のピークとダウンを把握し適切かつ柔軟に選手を配置するのが監督の腕の見せ所であり、勝敗は監督の采配一つでどうにでもなる仕組みだ。この監督のマネジメントぶりが、見どころの一つだ。

箱根駅伝は正月2日午前8時がスタートと決まっている。テレビ中継は7時30分から始まり、スタート前の選手たちの表情を伝え、解説者には、かつてのオリンピック選手瀬古利彦氏ほか駅伝選手のOBを配し盛り上げている。筆者は、毎朝恒例のラジオ体操から帰ってきて早速8時スタートのテレビの前にかじりつく。

2日、3日の箱根駅伝が終わり、4日は銀行への新年挨拶回り、5日には仕事始めと正月のスケジュールも結構忙しい。10日には組合月報の締め切りが控えており、今年の一月は何を書こうか？と思いついたがそうだ、箱根駅伝をレポートしようと思いつき立ち構想をまとめるために資料を集め、下書きとして原稿を書き出したが、書きはじめたら奥が深く、まとめるにはなかなか手に負えない存在に気付いた。軽く楽しくと考えていたが、組合月報投稿の3000字～3500字前後の範囲には収まり切れない。軽はずみに

手掛けたことを悔やんだが、ここでやめるのも悔しいことだ。そうかといって安易な妥協もできずこうなったら破れかぶれ、そこで一丁やってやれ。書けるところまで書いてみよう、とチャレンジした次第です。お読み苦しいところはお寛容のほどをお願い申し上げます。

横道はさておき、本題に戻る。

テレビ中継の中から特に印象に残ったドキュメント、ドラマ性のあるシーンを追いかけて更に日刊スポーツ記事から深堀する切り口で書き始めた。こんなことで「まとめ」ようと腹をくくった。

#### ◇往路 1区

最初に印象に残ったのが1区中央大2年吉居大和君の走りだ。大手町読売新聞社前をスタートした20校とオープン参加の関東学生連合を加えた合計21名のランナーが一団となってスタートした。

日比谷通りを皇居前から芝増上寺山門前を一団となって通過、実況中継車のアナウンサーの騒ぎ立てる声で聞こえない。解説者は元マラソンランナーとして1970年代から80年代にかけて活躍した瀬古利彦氏の説明はやや苛立たしげに聞こえた。

平坦な1区のランナーは駆け引き優先で、相手の出方だけを見ながら走るため好記録が出ない。強い選手を1区に入れて全体を引っ張るようにしなければ、箱根までの往路と明日の復路の合計での総合記録が伸びない。勝負も大事だが記録も大事。このような意味の説明があった。その声が聞こえたかのように、品川駅前付近から中大の吉居(以下敬称略)が一気に勝負をかけてきた。

三田から品川駅前へ、東京の新名所御殿山公園を右に見て、新八ツ山橋は僅かにアップダウンのあるところで、平坦な1区としては唯一の難所ではない難所があるところを一気に駆け抜けた。鶴見の中継所迄は、後半の約10キロの平坦な国道を、品川から蒲田の六郷橋を駆け抜け川崎市街地から鶴見の中継所まで一気に走り2区の手島にタスキを渡した。タイムは1時間40秒でこの中央大の吉居の走りが強く印象に残った。ちなみに1区の2位は駒沢大唐沢拓海1時間1分19秒でトップとの差39秒である。

ここで、解説者の話と筆者が調べた数字をご披露する。誤っていれば厳しいご指摘を頂ければと存じます。解説者の説明ではランナーの走るスピードは、概ね100mを14秒で走るとされている。これを基準に計算すると1秒で約7メートル、1分約420mの計算だ。とすれば39秒違えば273mの差がつく計算になる。1団となってスタートしたことを考えれば大きく差をつけたことになる。瀬古氏の言う強いランナーが出て全体を引っ張ったことになるのではないか！

#### ◇2区では11位

ところが、ところがところがである。1区で1位がなんと2区で10人に抜かれて11位の1時間8分52秒に後退した。2区を制したのは駒沢大の田沢廉が1時間6分13秒、2分39秒の差をつけられた。ここが箱根駅伝の一つのポイントと見たがいかがでしょうか？選手が不調または負傷し本来の力を発揮できない場合は選手の責任になる。しかし、選手のコンディションを見抜いたうえで起用するのが、監督コーチつまりマネージャがマネジメントする。つまり気がつかず、気がついても適切な指導をしなければ、マネジメントの責任になる。このマネジメント力の差が勝敗を左右するのではないか。ここで企業と大学の違いとして企業は長い目で人材を育てられる。

しかし、大学は4年間しかない。選手は1年ごとに入れ替わる。短期間で選手を育て上げ、本番にピークを持ってくるよう指導しなければならない。諺に何事も「石の上に3年」3年でやっと1人前というが、

大学には「この石」をどう作るのか。正に至難の業、神業に近いものではないか。

このように考えをめぐらすと「我々木材屋の企業経営はまだまだ甘い」と言わざるを得ないが如何でございましょうか？

往路を終わってみると中大の成績は、1位の吉居の頑張りが、2区の手島が追いつかれ追い抜かれたが、3区の三浦が8人抜きで7位4区の中野が2人抜いて5位、5区の安倍が1人抜かれて6位だ。2区の手島を起用した監督はどのような思いか

・中央大学藤原正和監督談

吉居が「覚悟を決めた目」をしていた。逃げると思っていたがあんなに早くいくとは、手放しに凄かった。

◇企業経営もしかりである。

青山大は総合優勝6度目の常勝チームだ。原晋監督は、選手と一緒に合宿所で寝起きを共にしている。原夫人は寮母として同じ合宿に住み込み、食事の世話をしている。相撲部屋の親方とおかみさんに似ているが、相撲の競技自体は個人競技でマラソンと一緒ににならないが、「選手や弟子を育てる」ことでは同じことだ。

原監督の得意技は、トイレにスケジュール表を張り付け毎日365日書き込んでいる。

また、内部、外部とのコミュニケーションに全力を挙げている。アウトプット、インプットでマスコミ報道陣へ発信、吸収しそれを自分流に消化、加工したうえで、内部の選手たちに落とし込んでいる。これは正に企業経営のトップマネジメントの神髄ではないか？しかし、優れた青山大も昨年の駅伝では駒澤大に敗れ4位に転落した。総合優勝したインタビューで、原監督は選手たちに監督の言う事の更に前へ出よ。(俺を越えよの意味だろう)でパワフル作戦が成功した。選手たち一人一人が前回の反省を胸に刻んで練習し本番で力を発揮してくれた。

山登りでは、山の神は前年にこのままではなれそうにない。と思っていたが若林が頑張ってくれた。

◇青山大は往路5区山登り5時間22分6秒2位の帝京大5時間24分43秒と2分19秒37差があり、青山大のキャプテン高橋勇輝(4年)は最後の箱根に挑んだ。ところが山下り6区で失速、駒澤大の佃に1分50秒迄追いつかれた。

この間で原監督の出番があった。応援車から「げき」が飛んだ。「お前は今日で現役最後だ。恥ずかしくないように走れ」に励まされ、大崩れせずに7区の岸本にタスキをつないだ。この場面が印象に残っている。監督の一言が優勝の一因であろう。そのほかにも感動した場面が多く第98回箱根駅伝は意義のあるレースであった。

勝つには、複数の要因が絡むものの最後は、監督と選手のコミュニケーションから生まれる信頼関係であると確信した。企業経営のしかりである。

◇選手インタビュー

・青山大5区山登り若林宏樹(1年)

山登りは想像以上にきつく苦しかったが、山の神になれたことと、1区総合で恥ずかしくない往路賞を頂き嬉しかった。来年は山の神で区間賞をとる

・帝京大細谷翔馬は、往路2位の5区、区間賞1時間10分33秒に1時間10分46秒と僅か13秒差で区間

1位を逃がした。尚山の神区間賞記録は2020年東洋大宮下隼人の1時間10分25秒である。

- ・中倉啓敦(3年)復路10区アンカー 1時間7分15秒区間1位、去年の悔しさをバネにして優勝できた。この勢いを来年につなげていく。「原監督 連覇を目指す」と結んだ。

完

◆第98回箱根駅伝 順位変動◆											
2日 往路					3日 復路						
1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区		
甲 大	↗ 駒	↗ 青学	→ 青学	→ 青学 大	①	→ 青学	→ 青学	→ 青学	→ 青学	→ 青学 大	①
駒 大	↗ 青学	↗ 東国	→ 東国	↗ 帝京大	②	↗ 駒	→ 駒	↗ 順	→ 順	→ 順 大	②
東海大	↗ 国士	↗ 帝京	↗ 国学	↗ 駒 大	③	↗ 順	→ 順	↗ 甲	→ 甲	↗ 駒 大	③
専 大	↗ 東国	↗ 国学	↘ 帝京	↘ 国学院大	④	↘ 帝京	→ 帝京	↗ 東国	↗ 駒	↗ 東洋大	④
青学大	↗ 帝京	↘ 駒	↗ 創価	↗ 順 大	⑤	↗ 甲	↗ 創価	→ 創価	↗ 国学	↗ 東京国際大	⑤
国学院大	↗ 創価	↗ 東洋	↘ 駒	↗ 甲 大	⑥	↘ 国学	↗ 東国	↘ 駒	↘ 東国	↘ 甲 大	⑥
関東学運	↗ 山学	↗ 甲	↗ 順	↘ 東京国際大	⑦	→ 東国	↘ 甲	↘ 帝京	↗ 東洋	↗ 創価大	⑦
東京国際大	↗ 東洋	↗ 法	↘ 甲	↗ 創価大	⑧	→ 創価	↗ 東海	→ 東海	→ 東海	↘ 国学院大	⑧
帝京大	↗ 法	↘ 国士	↘ 法	↗ 東洋大	⑨	→ 東洋	→ 東洋	→ 東洋	↘ 創価	↗ 帝京大	⑨
法 大	↘ 国学	↗ 順	↗ 早	↗ 東海大	⑩	→ 東海	↘ 国学	→ 国学	↘ 帝京	↗ 法 大	⑩
◆シード権ライン◆											
国士館大	↘ 甲	↘ 創価	↘ 国士	↘ 早 大	⑪	↗ 法	→ 法	↗ 早	↗ 法	↘ 東海大	⑪
神奈川大	↘ 学運	↘ 山学	↘ 東洋	↗ 神奈川大	⑫	→ 神	↗ 早	↘ 法	↘ 早	↗ 神奈川大	⑫
東洋大	↘ 神	↗ 早	↘ 山学	↘ 法 大	⑬	↗ 国士	↘ 神	→ 神	→ 神	↘ 早 大	⑬
明 大	↗ 早	↘ 学運	→ 学運	↘ 国士館大	⑭	↘ 早	↗ 明	→ 明	↗ 国士	↗ 関東学運	⑭
山梨学院大	↗ 日体	→ 日体	↗ 明	↘ 関東学運	⑮	→ 学運	↘ 国士	→ 国士	↗ 学運	↗ 明 大	⑮
創価大	↘ 明	↘ 神	→ 神	↘ 山梨学院大	⑯	→ 山学	↘ 学運	→ 学運	↘ 明	↘ 国士館大	⑯
早 大	↘ 東海	↗ 明	↘ 日体	→ 日体大	⑰	↗ 明	↘ 山学	→ 山学	↗ 中学	↗ 中央学院大	⑰
駿河台大	↗ 順	↘ 東海	→ 東海	↗ 明 大	⑱	↘ 日体	→ 日体	↗ 中学	↗ 日体	→ 日体大	⑱
順 大	↘ 専	↗ 駿	↗ 中学	→ 中央学院大	⑲	→ 中学	→ 中学	↘ 日体	↘ 山学	→ 山梨学院大	⑲
日体大	↘ 駿	↗ 中学	↗ 専	→ 専 大	⑲	→ 専	→ 専	→ 専	→ 専	↗ 駿河台大	⑲
中央学院大	→ 中学	↘ 専	↘ 駿	→ 駿河台大	⑲	→ 駿	→ 駿	→ 駿	→ 駿	↘ 専 大	⑲

箱根駅伝順位変動表(往路、復路)